
富里市高齢者保健福祉計画・第 8 期介護保険事業計画策定のための
地域包括支援センター（市内 3 地区）合同ヒアリング調査報告書

【概要版】

令和元年 8 月

◇ ヒアリング調査の概要

1 ヒアリング調査実施の趣旨

富里市の次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のため、市内3地区の地域包括支援センターを対象に、地域包括ケアシステム構築の進捗状況の確認と、現在重点的に取り組んでいる点や課題等をヒアリング調査するとともに、各地域包括支援センターの取組や課題を共有することで、市全体としての地域包括ケアシステムの在り方を考察する機会として実施した。

2 調査の内容

●日時：令和元年5月17日（金）午前9時30分～午前11時30分

●場所：富里市役所本庁舎3階第1会議室

●ヒアリングテーマ

① 地域包括ケアシステムを構築していく上での課題

・地域包括支援センターごとに、地域包括ケアシステムを構築していく上での課題について

② 各地域包括支援センターの重点的な取組と課題

・地域包括支援センターごとに、現在重点的に取り組んでいる事業等と、その事業・取組の課題について

なお、ヒアリング調査の実施に際し、事前に調査シートを配布し、回答をいただいていたことから、ヒアリング当日は、3包括の出席者から回答の補足説明や追加意見を聴取する形式で進行。このため、本報告書では、事前回答も含め、ヒアリングの内容をとりまとめている。

③ ディスカッション

・ヒアリングの後半において、ディスカッションパートを設け、2つのテーマについて3包括からの意見を伺った。

●出席者：次表のとおり

氏 名	所 属	職 名
押切 功	高齢者福祉課介護保険班	副主幹
南 直志	高齢者福祉課介護保険班	主査補
山崎 恵子	高齢者福祉課包括支援班 (基幹型地域包括支援センター)	副主幹(センター長)
山崎 祐子	高齢者福祉課包括支援班 (基幹型地域包括支援センター)	主任技師(保健師)
中川 孝道	北部地域包括支援センター	センター長(主任 CM)
宮根 多江子	北部地域包括支援センター	生活支援コーディネーター
土屋 和秀	中部地域包括支援センター	センター長(主任 CM)
田口 実栄子	中部地域包括支援センター	生活支援コーディネーター
土屋 亮太	南部地域包括支援センター	センター長(主任 CM)
津島 康則	南部地域包括支援センター	社会福祉士
堀内 康史	(株)ぎょうせい	研究員
伊藤 雅徳	(株)ぎょうせい	研究員

◇ ヒアリング調査のまとめ

1 医療

<退院支援>

質問項目	入退医療機関には退院支援担当者が配置されるとともに、退院前カンファレンスが医療・介護分野の多職種が参加し日常的に開催されているか
現状と課題	・3 包括ともに、以前より改善されてきており、退院前カンファレンスが実施されることも増えてきているとの回答であった。 ・一方で、遠方の病院との連携は不十分であったり（中部）、病院によってはカンファレンスが開催されないこともある（北部）。
今後の取組	今後、より一層連携づくりをすすめていく必要がある。退院直前での連絡では、間に合わないケースもあり、入院時から連携することも検討する必要があるのではないか（中部）。

<退院後の日常の療養支援、急変時の対応（１）>

質問項目	在宅医療連携のための多職種（医療・介護）研修会等の開催や、日常的に情報共有・連携が行われているか（ＩＣＴ・連携バス・共有シート等の活用）
現状と課題	・年に１度市全体での医療介護連携会議が開催されている。また、市が作成した医療介護連携シートを活用している。 ・医療・介護連携シートは、病院によっては、使える病院と、使えない病院、提携している病院とそうではない病院がある。
今後の取組	・医療・介護連携シートの活用。年に１回は医療・介護で顔の見える連携会議というものがあるが、それ以外にもそういう機会があっても良いのではないかと（中部）。 ・訪問診療を行っている医療機関が包括に対して課題感を持っているのであれば聞いてみたい（中部）。

<退院後の日常の療養支援、急変時の対応（２）>

質問項目	在宅医療を行う診療所・かかりつけ医をバックアップする体制があるか
現状と課題	・ケアマネジャーから主治医にケアプランを提出することが定められているが、認識していないケアマネジャーもいると思われる（北部）。 ・日常的に地域住民のかかりつけ医や薬局とも連携している（南部）。 ・訪問診療をするクリニックへは地域の住民を継続的に診てほしいことから、新しい患者を紹介するよう心掛けている（南部）。
今後の取組	・ケアマネジャーから主治医へのケアプランの提出が徹底されていないように思える。在宅における状況を医師にも把握してもらえよう改善を促す（北部）。 ・富里市の認知症ケアパス・医療介護マップに掲載されていない病院があるので、そういうところの連携を改善していく必要（南部）。

<看取り>

質問項目	自宅、施設等での看取りに関する市民への情報提供や、市民が気軽に相談できる窓口等の設置の状況はどうか
現状と課題	・包括で相談対応ができることを、チラシ等には記載しているが、当地域において周知活動は展開されていない（北部）。 ・課題は自宅での看取りを実現するための資源、訪問診療や訪問看護が少ないことではないか（中部）。 ・ターミナルケアという言葉そのものを元気なときから話題に出し、議論をしようということをタブー視するような風潮は、他所から移ってきた団地の住民以上に、農村部に行けば行くほど、そういうものを感じる（南部）。
今後の取組	自宅での看取りはまだ一般的ではないが、自宅で、または施設でという流れにはなってきている。一方で、看取りまで対応可能な施設であるとか、訪問診療や往診への対応は富里市ではまだまだ少ないため、増やしていく必要がある（北部）。

2 介護

<介護保険サービスの基盤>

質問項目	在宅生活の継続を支援する地域密着型サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護・小規模多機能型居宅介護等）は、地域で十分に利用されているか
現状と課題	・定期巡回・随時対応型訪問看護事業所はまだなく、小規模多機能型居宅介護も1か所であり当地域から離れている（北部）。 ・中部地区にはサービスを提供する事業所はない（中部）。 ・小規模多機能型居宅介護事業所のサルビアホームは地域住民へ向け、広報活動を行っている。認知症対応型通所介護とグループホームおたがいさまは地域の認知症の方々に十分利用されている（南部）。
今後の取組	・地域で十分に利用されるためには、まずサービス提供事業所があることが前提なので、事業所が参入しやすい基準の緩和が求められる（北部）。 ・これらのサービス提供事業所は、たくさんの人数を受け入れられないということは、利益が出にくい。採算度外視の地域貢献目的でやっている部分が多いと思われ、10年先、20年先も続けていけるように、経営がピンチになったときには、救済してもらえるようであればと思う（南部）。

<人材育成（1）>

質問項目	地域の専門職等の関係者に対して、人材育成に関する情報提供を十分に行っているか
現状と課題	・包括からの情報提供の取組は十分に行われていない（北部・中部）。
今後の取組	・包括主体の専門職を対象にした研修会を今後は増やしていく（北部）。 ・人材育成をする側の学びの場も必要と思われ、指導者ミーディングなどがあるとよい（南部）。

<人材育成（２）>

質問項目	不足する介護職員等の人材確保について、法人・事業所間で連携を行うなど、地域全体の課題として認識され取り組まれているか
現状と課題	・それぞれの法人・事業所で人員不足は課題と思われるが、連携して取り組む対策は、現在ない（北部）。
今後の取組	・人材の育成、確保に関して地域全体の課題としてどのような連携、協力ができるのか、包括職員が把握する必要がある（中部）。 ・求人が上手くいった事業所の事例を地域で共有することで、富里市の福祉の充実を図る（南部）。

３ 介護予防・健康づくり

<介護予防・健康づくり（１）>

質問項目	生活習慣病予防、疾病予防、介護予防、重度化防止等について、各種データ等の活用により、関係機関が連携して地域の健康課題の把握・予防を行っているか
現状と課題	・病院担当者や市健康推進課などと直接連携して行う取組はない（北部・中部）。 ・富里市から要支援者、要介護者の人数等のデータが示されている。
今後の取組	病院や健康推進課などと連携し地域課題について協議し、住民や関係法人等へ説明していく体制づくりが必要（北部）。

<介護予防・健康づくり（２）>

質問項目	住民主体の通いの場等にリハビリ専門職等が関与しているか
現状と課題	・月２回北部コミュニティセンターにOTとマッサージ師が交互に体操による介護予防の指導を行っている（北部）。 ・介護予防教室をリハビリ専門職と一緒に開催してはいるが、住民主体の通いの場に関与する取組は行っていないし、今後も難しいと考える（中部）。
今後の取組	制度としてリハビリ専門職が外に出て、それが報酬になるような仕組みがあったりすれば話は別だと思う（中部）。

4 住まい・生活

<住環境（１）>

質問項目	手すりの設置や床段差の解消等の住宅改修にあたっては、リハビリ等の専門職との連携がなされているか
現状と課題	・退院に向けてリハビリ専門職が家屋調査を行い、必要な環境整備について意見することは、元々実施されており、現在も実施されている（中部）。 ・入院中の患者が退院する前には、PT による家屋調査が行われている（南部）。 ・PT が家屋調査に来られない場合は、包括職員が住宅内の危険個所を PT へ伝える等している（南部）。
今後の取組	リハビリ専門職が関わって、手すりの設置など住環境を整えるというのはやはりすごく大事なことはないかと思う（中部）。

<住環境（２）>

質問項目	「住まい」と「生活」を一体的に捉えた地域づくりが進められているか
現状と課題	・どのような地域づくりのことを指すのか分からない。そこが課題ではないか（中部）。 ・コンパクトシティの考えに基づく「住まい」と「生活」を一体的に捉えた地域づくりはなされていない。地域によっては家 1 件ずつが離れており、コンパクトにはならない（南部）。 ・交通の便が悪く買い物に行かれないといった課題に対して、法人と協力し買い物支援をはじめている（南部）。
今後の取組	買い物の利便性向上について、今後は移動販売へはできる限りの協力をしたいと考えている（南部）。

5 生活支援・見守り等

<地域資源の把握・周知>

質問項目	見守り、外出支援、買い物支援等を行う事業主体（地域資源）の把握と、地域住民への地域資源の周知は行われているか
現状と課題	・地域資源全てを地域の事業所等が把握していないと思われる。また住民側も地域資源を把握していないように感じる（北部）。 ・地域資源の把握を行っているのは市社協、サポセンも同様で、以前と比べて充実していると思う（中部）。 ・総合相談において適宜住民へ地域資源の情報提供をしている（南部）。
今後の取組	生活支援コーディネーターが地域資源を把握し、リスト化している。随時追加、更新していく予定（中部）。

<地域福祉活動、ニーズ把握>

質問項目	生活支援，見守り，ボランティアの育成等にあたって，社会福祉協議会，民生委員，民間事業者等の連携はとれているか
現状と課題	・協議体のメンバーにそれぞれの団体から参加している（北部）。 ・包括として把握していない（中部）。 ・社会福祉協議会、民生委員、地区社協との連携がとれている（南部）。
今後の取組	・育成にあたって連携をとる仕組み、定期的な情報交換の場や会議の場を設けることは必要かも知れない（中部）。 ・ボランティアを希望する人の意見としては、ボランティアポイントは対価（お金）でもらうのではなく、自身が要介護状態となったときに、優先的に対応してもらえとか、何か先々でメリットが得られる積み立てのような仕組みであつたら魅力的ではないかという意見を聞く（南部）。

<認知症への対応>

質問項目	認知症サポーターの養成・普及、効果的な活用や、認知症の人とその家族への支援に関する取組は、地域に定着しているか
現状と課題	・サロンなどに呼び掛け認知症サポーター養成講座の出前講座を開催し、また月に1度認知症カフェが開催されている（北部）。 ・支援の取組が地域に定着まではいっていないと思うが、認知症サポーター養成講座やそれに準ずる教室は開催している（中部） ・南小、浩養小の4年生、富里高校生対象に認知症サポーター養成講座を開催している（南部）。
今後の取組	・認知症が恥ずかしいと思わないよう地域で支える体制づくりが必要（北部）。 ・当事者や家族に、どのような集まりであれば気楽に出てくることができるか、教えていただく（南部）。 ・一般の人も出入りする普通の喫茶店みたいなところで、認知症の人と一緒に喫茶ができる時間、空間を貸していただけないだろうかということを今、3包括の認知症推進委員の人たちと一緒に交渉している。

<権利擁護（成年後見制度等）、高齢者虐待防止対策の取組>

質問項目	成年後見制度の利用支援・普及啓発や虐待防止ネットワークの活動を通じた連携・協力体制の構築はされているか
現状と課題	・成年後見制度、虐待支援は地域包括支援センターが地域の相談窓口となっている。市の高齢者福祉課、NPO 法人の市民後見団体と連携して対応しているが、虐待防止ネットワークは構築されていない（北部）。 ・連携、協力体制が構築されておらず、対応は各包括に任されているのが現状（中部）。 ・成年後見について、印旛圏域では市町村申し立てにすごく時間がかかるのが現状だと聞く。いざ裁判所から必要性を認める審判が下っても、専門職の中で今度は後見人の成り手がなくて更に待たせてしまうというのも課題であると聞く。
今後の取組	・虐待防止ネットワークの構築を市と協議していく（北部）。

6 体制

＜専門職・関係機関のネットワーク（１）＞

質問項目	ケアマネジャーのネットワークや、医療・介護等の多職種ネットワークがあり、事例検討や研修会等を通じて顔の見える関係があるか
現状と課題	・全職種参加の多職種研修会が年 1 回開催され、隔月でケアマネジャーと介護事業所の連絡会（研修会）がある。地域ケア会議を開催し、医療職、介護職を交え事例検討会を年 1 度開催している（北部）。 ・研修会で顔見知りになるだけでは、仕事上のネットワークにならない場合がある（南部）。
今後の取組	地域ケア会議や研修会の工夫をする。例えばグループワークの時間を長めにとり互いを良く知ることができるようにする等（南部）。

＜専門職・関係機関のネットワーク（２）＞

質問項目	医療・介護等の専門職・機関が、市民向けの相談会や健康教室等に参画しているか
現状と課題	・病院が開催している市民向けの講演会が開催されている（北部）。 ・介護予防教室やとみさと健康ちよきん体操、とみのわサロン、農活など包括のものは全て専門職が実施しているが、包括職員以外の医療機関や介護事業所の専門職が参画しているものは多くない（中部）。 ・包括は職員が 4 名（主任介護支援専門員、看護師、社会福祉士、生活支援コーディネーター）であり、相談業務もあり地域作りもあり、なかなか連携のために出向けないこともあり困っている（南部）。
今後の取組	・地域の医師や介護職による相談会などを企画していく（北部）。

＜地域の参画（１）＞

質問項目	在宅生活の継続ができる地域づくりに向けて、多様な団体・組織（ボランティア団体、NPO 法人、自治会）が取組を進めているか
現状と課題	・自治会によっては独自にボランティアを組織し、活動をしている（北部）。 ・まだまだ地域づくりは進んでいない。現状の周知もまだまだではないかと感じている。ただしそういう中でも、少し説明をすると、自治会として助け合いとか、見守りの組織をつくってみたいという話があったりするので、少しずつ進んでいるのかなと思う（中部）。 ・地域では古くから地区社協が地域づくりに向けて働いてきており、また様々なボランティア団体が、それを必要とする人たちのために働いている（南部）。
今後の取組	・協議体が地域の中心となり様々な団体や組織づくりを呼び掛けていく（北部）。 ・今年度開催の「けあ・カフェ」は担い手作りの意図もある。南部 3 つの地区社協とそれよりも小さい自治会へ参画し地域づくりにまぎていただき、協働する（南部）。

<地域の参画（２）>

質問項目	市民（個人又はグループ）のボランティア活動は活発に行われているか
現状と課題	・北部地区は、意外とボランティアに対する意識が高い地域であるが、活動内容の種類が少ない（北部）。 ・ボランティアが活発に動いているとはあまり聞かず、少ないという感じはする（中部）。 ・様々なボランティア団体が、それを必要とする方たちのために、働いている（南部）。
今後の取組	・具体的な事例として、理容師の資格のある人紹介されて、結果、デイサービスセンターの方で、頻度は多くはないが、ボランティアとして散髪をやっている。こういった話というのはどこに転がっているか分からず、見逃さないようにしていくのが良い（南部）。

<地域の参画（３）>

質問項目	サロン活動、介護予防・健康づくり活動、地域の見守り等の住民主体の地域活動は活発に行われているか
現状と課題	・サロンはいくつか立ち上がってきており、昨日も１件出てきており、住民のサロンに対してのニーズはあると感じている。問題は、活動の場所、スペースがないこと（北部）。 ・地域活動が活発に行われている地域は活動拠点がしっかりとある地域に限られているように感じられ、自治会館等の拠点が無い地域もあり、それが課題にもなっている（中部）。 ・地域の中でも活発なところとそうでないところがある（南部）。
今後の取組	・活動場所の確保のため、商店街の空き店舗等が活用できたらなと思っている（北部）。 ・サロン活動にせよ、健康づくり活動にせよ、立ち上がったところが一つ一つ潰れることなく存続していけるように見守っていくのも大事な役割かなと思っている（南部）。

<市の関与・連携（１）>

質問項目	高齢者保健福祉や介護保険事業の政策方針を市が明確にし、地域包括支援センターと協働した取組が行われていると感じるか
現状と課題	・毎月のミーティングなど高齢者福祉課も参加し都度情報提供を受けている（北部）。 ・毎月定期的に市高齢者福祉課とのミーティングが設定されており、原則全ての担当者が出席することになっている（中部）。
今後の取組	介護保険事業計画や高齢者保健福祉計画の策定に合わせ、説明を受ける機会を設けるなど働きかけていく（北部）。

<市の関与・連携（２）>

質問項目	地域ケア推進会議で抽出された地域課題等を受け、必要に応じて介護保険事業計画等に反映する仕組みがあると感じるか
現状と課題	・地域課題については、要点をまとめたものを市に提出している。地域ケア推進会議の開催はなく、介護保険事業計画に反映されているかは不明（北部）。 ・地域ケア推進会議は開催していない（南部）。
今後の取組	・地域ケア推進会議を開催し地域課題を施策に反映する仕組みがあるのなら、地域ケア推進会議を開催したい（南部）。

<市の関与・連携（３）>

質問項目	高齢者人口のピークに向け、地域の関係者や市民が課題と方向性を共有するために、政策の目標を周知しているか
現状と課題	・地域ケア会議や地域ケア講演会、地域ケア勉強会などを通し、地域の関係者や市民に課題や方向性を説明し、大まかな目標を共有している（北部）。 ・生活支援コーディネーターが各地で説明会を開催する等、周知活動を実施している（中部）。 ・「２０２５年問題」に関しては各包括の研修や会議等で住民へ伝えている（南部）。
今後の取組	・介護保険事業計画等はいつでも閲覧できるようになっているし、見なければいけないものであるが、計画について、こうした方針でやっていくだとかという話は市の方からはないかなと思う（北部）。 ・書面とかで明確に政策方針がこうなっていますというようなことは、見たことがあるのかどうか、分からない。日ごろから連携がとれていて、いろいろと常に相談に乗っていただいているので、協働しているという感覚はすごくあるので、あまり課題として感じていなかった（中部）。 ・地域課題を施策に反映させる仕組みについて、地域ごとの包括が開催する地域ケア会議だけで、参加している人の皆が納得してもらえるような明るい答えが出ないときには、市にも協力というか、問題意識の共有というのをお願いしていけたらなと思っている（南部）。

7 ディスカッション

テーマ1：他の地域に比べ富里市の要介護認定率が低いのはなぜか？

【主な意見】

- 富里時間というのがあり、のんびりしている。会議には皆遅れてくるというように、のんびりしているという地域性がある。これは大変だとなるのが遅いという面もある。
- 富里は、寒い、暑いはあるが、他のところに比べ、気候が穏やかで、気温差も比較的平均的。山はないし、畑もあるし、川もとおりあえずあるし、食べ物に困らなかったり、住むところに困らなかったりとか、そういうところがあって、まず困らないから先延ばしにする気風がある。
- 農家の人は自分たちの土地を開拓した人たちが多いところなので、自分の畑や田んぼを守るという、自分の土地を守るといった感じから、他の人を受け入れないところがあり、人に頼みづらいところを発端にして町が発展してきている。そういう気風の人たちが各地域にいと、だんだんとうつつてくるというか、他所から来ても富里の人になってきている人も結構いる。ここは食べ物に困らないし、あまり人と関わりたくないという人が結構いるのかなと思う。
- 認定率が低いというような情報があり、内部の会議で話をしたときに、「介護保険について知らないのではないか」という意見もあった。「こういう支援が受けられて、助かるのだよ」ということを、富里市ではそれほど良く知られていないのではないかと。中部地区の住民からは、「市はそんなにお金がないから、迷惑をかけたくない」、「できるだけ、自分たちで頑張りたい」という意見も良く聞く。
- 「お嫁さんがいるのに、誰か（事業所）に入ってやってもらっている」とか。
- 認知症の人を（世間から）隠したがるとか、他の人からの支援には頼らず「運命共同体だからよいのだ」と寄せ付けないとか。（介護保険サービス事業所の）マークやシールを貼った車が家の前に停まっているような場面を見ると世間体を気にして「来ないでくれ」という人もいる。
- 北部ではそういったことは聞かれない。「介護保険料を払っているのだから、使う権利がある」という感じだ。

テーマ２：住民の健康意識を高めるための動機付けの方策について

【主な意見】

- ちよきん体操をしているマンションの自治会のお茶会に呼ばれた際に、参加者から、一人になって外に出ることもなくなったけれども、元気な 85 歳のおばあちゃんに誘われたことをきっかけにちよきん体操をはじめたという話を聞いた。会の中でも「あのおばあちゃんのように歳をとりたい」という目標を持つことがきっかけとなって参加するようになった人が多くいるようで、目標があることでちよきん体操が継続されていくという好事例ではないかと思った。
- ちよきん体操をしている人の中では、意識を持って周りに広げてくれる人もいるので、それをフォローしつつ、そういったところが少しずつ増えていくのが良いのかなと思う。
- 北部地区はコンパクトで狭い地域であるが、巨大な公民館がある。そこでは多様なサークル活動が既にあって、活動の選択肢も多く用意はされているけれども、行かない人というのは行かないし、人付き合いが嫌いとか、どういった理由なのかは分からないけれども、出ない人というのは、絶対に出ない。出たくないという人を引っ張り出すのは本当に大変なことに実感している。
- 北部ではシルバークラブが中心になって、部活動がたくさんある。中部でもそういったものができれば良いと思うので、社協のシルバークラブとの連携も考えて行きたいし、中部地区ではサークル活動をやっているところが結構あるので、公民館などと連携をとってというのがある。ただ、考えてはいるが、そこまで手が回っていない。
- 若い人でも出たくない人はいる。そういう人は歳をとっても、どこかでライフスタイルを変えない限りは出ないと思う。ましてや地域の外で仕事をしていれば、地元で友だちがいらないという人は富里にはいっぱいいると思う。ただし、実際に歳をとって、困りごとが起これば、どこかしらに自分たちでアプローチして出てくる事例は多々あると思うので、包括などでそういうときにすぐに手を差し伸べられる体制や、資源を用意しておくことがまず大事ではないかと思う。困りごとを掘り起こすことも大事で、現状としてはこちらの方が今は大事なかなとも思っている。